

e シンキング（ひとづくり広域連合政策情報メルマガ）創刊号
2004/11/15 発行（月 1 回発行）

各職員に転送または、配布をお願いします。

目次

[最新情報]

すてっぷあっぷ講座

[募集します！]

政策情報誌「Think-ing」原稿募集

[政策研究の紹介]

「道路構造物の今後の維持管理のあり方について」の研究をしています。

[私の選んだこの 1 冊]

「トヨタ式人づくりモノづくり 異業種他業種への導入と展開」

[政策研究部から]

すてっぷあっぷ講座 i n 熊谷レポート
第 1 8 回自治体学会・千葉大会

[創刊にあたって]

彩の国さいたま人づくり広域連合自治人材開発センター - 所長 篠崎 智子

地方分権がかけ声であった時代を超えて、自治体が市民と共に地域をどのようにしていくか、自治体職員の力量が問われています。毎年構成団体の皆様の参画で発行している政策研究情報誌『Think-ing』の姉妹版として、メールマガジン『e シンキング』をお届け致します。この媒体を通して、自治を取り巻く新しい話題を発信していきたいと思っております。皆様の参画をお待ちしています。

[最新情報]

すてっぷあっぷ講座

1 1 月 2 6 日（金）に「指定管理者制度」をテーマに実施する「すてっぷあっぷ講座 i n 春日部」は、定員を大幅に超える申し込みをいただき、既に締切

となっています。多数のお申し込み、有難うございました。

今回は、道路構造物などを例に社会資本マネジメントについての講演会を実施する予定ですので、こちらへの参加もお願いいたします。詳細は改めてお知らせします。

[募集します！]

政策情報誌「Think-ing」原稿募集

構成団体の職員の方から、政策提案・コラム等を募集し、政策情報誌「Think-ing」を発行しております。2月下旬発行予定です。

・政策提案の募集

独創性に富む先進的な政策提案を募集します。(1000字程度)

・コラムの募集

地方自治のキーワード(下記リンク参照)から、一つを選んで、あなたの提案や意見を気軽に投稿して下さい。(400字前後)

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/think-ing/bosyuu/H16bosyu.htm>

[政策研究の紹介]

「道路構造物の今後の維持管理のあり方について」の研究をしています。

構成団体職員が政策形成・政策開発と政策形成能力の向上を図ることを目的として、県内自治体が直面する行政課題について研究を行う政策課題共同研究。平成16年度は3つのテーマで6月に研究をスタートしています。

そのうちのひとつ、「道路構造物の今後の維持管理のあり方について」は、県職員6人、市職員3人、広域連合職員1人の10人のチームで研究を進めています。

道路構造物とは、道路を形作っている様々なもののうち、橋、トンネル、舗装などをいいます。高度成長期にたくさん作られた道路構造物はこれから一斉に架け替え、大規模修繕などの更新時期を迎えます。また、構造物も含めて、道路は作ったらおしまいではなく、継続して維持管理を行う必要があります。維持管理の内容は舗装の補修から、側溝清掃、街路樹の剪定まで、多種多様です。厳しい財政状況が続く中、コストを削減しつつ適切な更新や維持管理を行い、安全で快適な道路を利用していただくためにはどうすればいいのか……。

研究員は、広域連合といういつもの仕事からちょっと離れたところで様々な立場や経験を活かし、忙しい本務のかたわら、所属のご理解をいただいて、研究を進めています。

研究成果をまとめた報告書は2月発行予定です。(にゃ)

[私の選んだこの1冊]

「トヨタ式人づくりモノづくり 異業種他業種への導入と展開」
若松義人 / 近藤哲夫 (著) ダイアモンド社

最近、行財政改革を進める一つの方法として、民間企業のやり方を参考にしようとする自治体が増えています。日本が世界に誇るトヨタ自動車(株)について書かれたこの本は、業種、業態を超えて示唆に富む一冊でした。「乾いた雑巾から水をしぼる」と評されるほどコスト削減を追求し、非人間的なイメージがありましたが、実際のトヨタは「人」を尊重し、すべての人間の意欲と持てる力を100パーセント引き出す会社であり、このことが何よりも、この会社の成功要因であることを知りました。トヨタは人間の持っている「考える能力」を最大限尊重し、社員が創造的に仕事を行えるように、いかに「考える余地」を与えるかに腐心します。社員の能力向上については、生産現場で求められる能力を箇条書きにし、個々の社員が今どのレベルにいるかをわかるように表にして(「星取り表」と呼ばれている)、社内に貼り出します。仕事において必要な能力がわかりやすく示され、現在の能力を一つずつ高めていこうとする意欲を生み出すと同時に、自分を含め誰がどのレベルにいるのかがオープンな形で理解でき、評価の透明性が確保される仕組みとなっています。

この本の中で再三出てくるのが、大切なのはトヨタ生産方式の手段・方法ではなく、モノの見方・考え方であるということです。単に製造業だから、民間企業だから出来たと考えるのではなく、いかにトヨタの哲学を自社流にアレンジできるかが鍵であり、また広く導入は可能だと著者は述べています。読み終えて本当にそのとおりだと実感しました。(M)

[政策研究部から]

すてっぷあっぷ講座 in 熊谷レポート

大盛況！！

「すてっぷあっぷ講座 in 熊谷 行政経営新時代 成功の糸口を探れ！！」報告

先の8月24日(火)熊谷市において行政課題研究会「すてっぷあっぷ講座 in 熊谷」を開催しました。

多くの申込みにより満員御礼となった講演会は、その内容についても、非常に高い評価を参加者から戴きました。

テーマ「行政経営新時代 成功の糸口を探れ！！」にふさわしい講演を千葉商科大学政策情報学部の玉村雅敏助教授にお願いしました。

その講演は3部構成で、イントロダクションとして「NPMのパラダイム」、第1部に「映画スーパーの女」に学ぶ改革成功へのプロセス、第2部に青森県「政策マーケティング」の実践をお話いただきました。

その中でも最も好評だったのは、映画を取り入れた講演、第1部「映画スーパーの女」に学ぶ改革成功へのプロセスです。

スーパーマーケットのレジ係に雇われた一人の女性が始めた「お店を顧客と従業員にとって良くしよう」という働きかけが、次第に協力者を得て店舗全体の経営改革運動に発展し、経営難に陥っていたスーパーマーケットが「日本一お客様のことを考える正直なお店」として、経営再建に成功するストーリーの映画を教材にして、経営改革に関わる重要場面を鑑賞しながら解説していただく「組織における経営改革のポイント」は非常にわかり易く、共感を得るものでした。映画の舞台こそスーパーマーケットでしたが、組織を動かす基本的本質を教えていただいた講演となりました。

行政経営改革を志す方々に勇気と希望を与えてくれたことと思います。(K)

熱気溢れるすてっぷあっぷ講座の風景はこちら

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/step-up/stepup.pdf>

第18回自治体学会・千葉大会レポート

平成16年8月27日幕張メッセ国際会議場にて第18回自治体学会・千葉大会が開催されました。

「明日を生き残る為に、闘う自治体 ～危機に立ち向かい、時代のうねりをつくり出す～」をテーマに開催された大会は午前2つのセミナー、午後10の分科会が開かれた他、ポスターセッションやトークセッションも催され、多くの自治体関係者が参加しました。

分科会4自治体経営改革 行政の外部開放 に参加したところ、自治体業務の担い手は既に役所だけのものではない、アウトソーシングやNPOそして行政パートナー等との協働により効率的かつ市民参加型の自治体行政経営を確立させることが重要である旨の講演を聴き、厳しい荒波に揉まれてい行くであろう今後の自治体経営について切実に危機感を持ちました。パネリストの志木市長穂坂邦夫氏に対しコメンテーター辻琢也政策研究大学院大学教授が「今後、志木市では80～90%の職員が行政パートナーに入れ替わると聞いたが本当か？」との旨の質問をされた時は筆者も一緒に「本当なの!？」と心の中で叫んでいました。志木市長からは「まずは行政として受け持つ公務の範囲を明確にした後、それを担う中核的職員の数を決めるのが筋だろう」との答えがありました。とにかく、今後の自治体職員に求められるものは今まで以上に高度な企画立案力と柔軟な思考・行動力だと身にしみてわかった一日でした。(K)

[参考]

自治体学会の HP はこちらです <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jigaku>

[編集後記]

この、編集後記にまで目を通していただきありがとうございます。初めて御覧になった感想は、いかがだったでしょうか。ITメディアを通じての情報発信は、本当に読まれているのだろうか？という不安が常につきまといます。打てば響くまでは行かないにしても、一方通行で自己満足の情報発信にならないよう、スタッフ一同、内容を工夫していきます。(政策研究部 河原塚)

[e シンキング]

ご意見・掲載希望

[政策研究の紹介] [私の選んだこの1冊] のコーナーや、セミナー等の参加レポートを募集しています。是非下記まで、御連絡ください。

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合

自治人材開発センター 政策研究担当(石田)

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/>

E-Mail: seisaku03@hitozukuri.or.jp